

KIRIN



よろこびが
つなぐ世界へ

Joy brings us together

キリングループ°

2019年12月期 第1四半期決算

2019年5月9日
キリンホールディングス株式会社

業績サマリー

- 2019年1Qの連結売上収益は前年比+0.7%、連結事業利益は-0.6%で着地。
- 連結事業利益は、通期計画に対して順調に進捗。
- ライオン飲料事業の資産価値再評価による減損損失571億円（4月26日発表済み）を計上した影響で、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、-408億円となった。

業績予想修正（4月26日発表済み）

- 減損損失571億円の計上を受け、4月26日に通期業績予想の修正を発表。
- 当該減損損失は平準化対象のため、平準化EPSおよび配当予想に影響はない。

事業利益は通期計画に対し順調に推移。1Qにて減損損失571億円を計上。

(億円)	2019年1Q実績	2018年1Q実績 ^{※1}	増減	%
売上収益	4,343	4,312	31	0.7%
事業利益 ^{※2}	369	371	-2	-0.6%
税引前四半期利益	-260	746	-1,006	-
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	-408	501	-908	-

・ 減損損失571億円を含む
・ 前年はキリン・アムジェン社株式売却益等を含む

定量目標

	2019年1Q実績	2018年1Q実績	増減	%
平準化EPS ^{※3}	25円	29円	-4円	-13.8%

財務指標 (参考)

	2019年1Q実績	2018年1Q実績	増減	%
EPS	-46.42円	54.86円	-101.28円	-

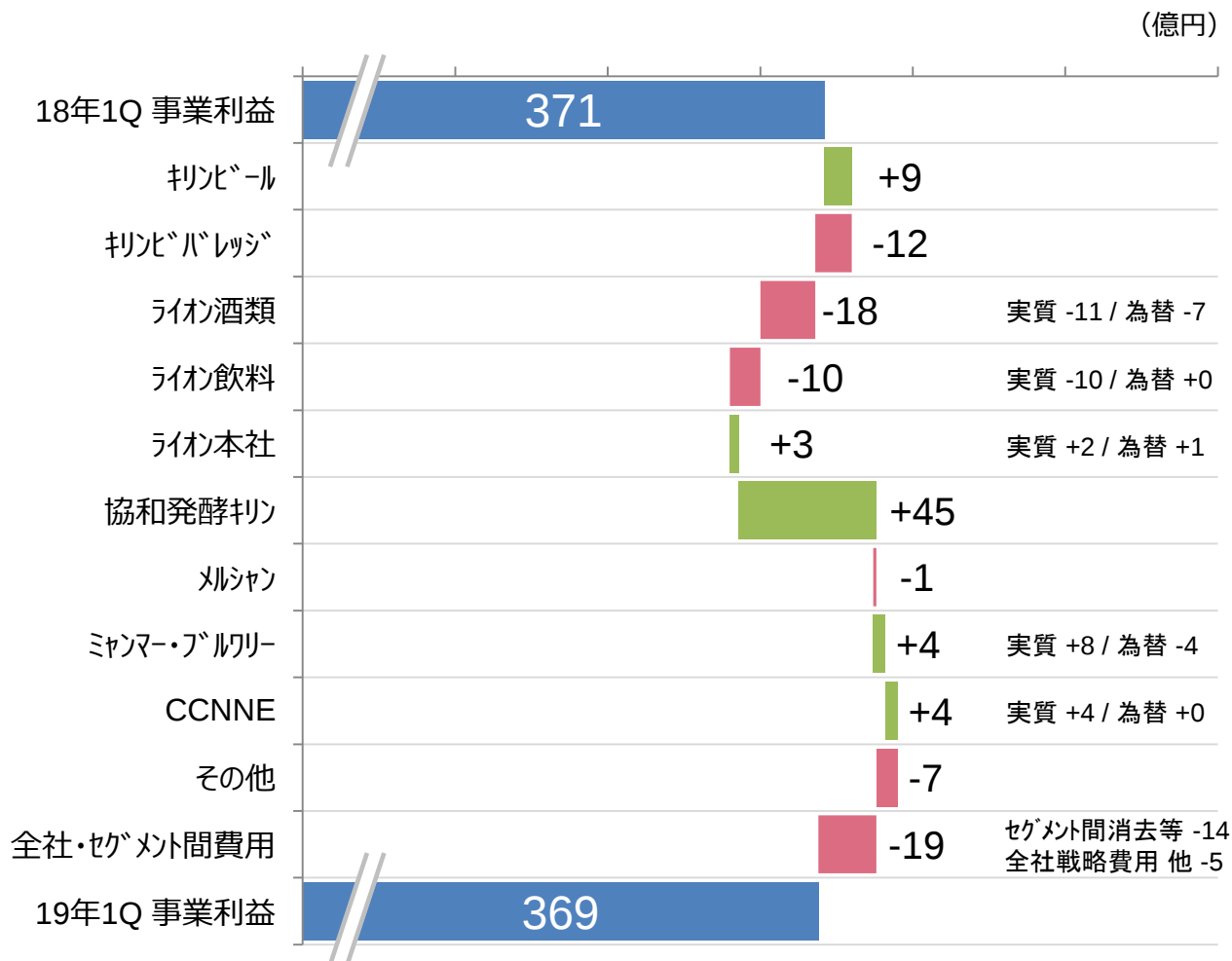
※1 2017年12月期に実施した事業の取得（CCNNE）に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、18年3Q決算発表時に前年実績を微修正済み。

※2 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※3 明細はp.19参照

2019年1Q 実績：連結事業利益 事業会社別増減

協和発酵キリン、麒麟ビールは堅調。ライオンは対前年マイナス。



チーズ事業を含むライオン飲料事業は売却方針であるが、計画上は通期予算を計上。
協和発酵キリンは、医薬・バイオケミカルセグメントのトータルを表示。

対前年

麒麟ビール

▶ 限界利益が減少するも、固定費の減少などで補い事業利益は前年増。

麒麟ビレヅジ

▶ 容器ミックスは悪化も、販売数量増や、トロピカーナ販売スキーム変更により限界利益増加。一方、販売費増などにより事業利益減。

ライオン酒類

▶ CDS（容器保証金制度）やイースター時期の差異などにより販売数量が減少し、事業利益に影響。

ライオン飲料

▶ 乳価高騰などにより減益。

協和発酵キリン

▶ 国内・海外での売上収益の増加により増益。

ミヤマール・ブルワリー

▶ ミックス悪化、コスト増となるも、販売数量の増加影響が上回り増益。

全社・セグメント間費用

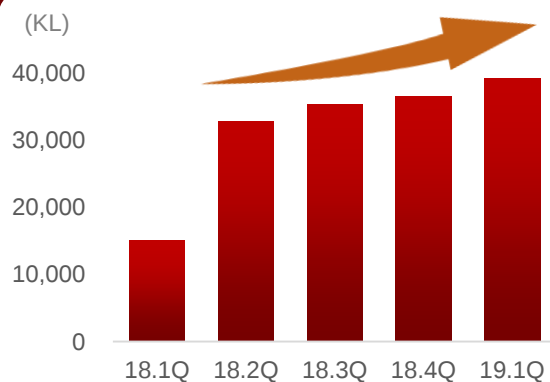
▶ ほぼ計画通りに進捗。全社直課費用は麒麟ビール-6億、麒麟ビレヅジ-2億で計上。

麒麟ビール

強固なブランド力と将来の収益基盤の確立に向け、順調なスタート。

トップライン成長の実現

本麒麟の好調継続



間口拡大に向け
「麒麟一番搾り
超芳醇」を期間限
定で全国発売

(2019年3月発売)



2Qトピックス

新・一番搾り

発売30年目

4月上旬
製造品より
リニューアル



ビールカテゴリーの伸長

タップ・マルシェに5ブランドが追加



2Qトピックス

4月22日

Brooklyn
DEFENDER
IPAをタップ・
マルシェで展開



キリンビバレッジ

「強固なブランド体系の構築」に向け成果と課題。

- 「午後の紅茶」及び「生茶」を含めた無糖・低糖領域強化に手ごたえ。小型PET容器の販売数量も順調に推移。
- 「FIRE」は販売数量が計画を下回る進捗。4月2日発売「ONEDAY BLACK」の増分最大化を図る。

強固なブランド体系の構築

無糖・低糖領域に成果

- 「無糖・健康」に注力する戦略に着実な成果。
- 基盤ブランドの貢献により小型PET容器は数量、売上ともに年初計画を達成。



2Qトピックス

強固なブランド体系の構築



小型缶の減少

大容量PETコーヒー

「FIRE ONEDAY BLACK」
での販売数量増を目指す



収益力の更なる向上

4月 キリンレモンリニューアル

- キリンレモンのオリジナル楽曲をキーにしたデジタルコミュニケーションを強化。
- 小型PET容器の販売増にも期待。



ライオン

1Qの販売数量は減少。2019年中計の成長戦略を着実に推進。

ビール事業の拡大に向けたブランド育成

ビール

- ▶ CDSの影響、イースター時期の差異や、18年4Qの販売数量増の反動により販売数量が減少。
- ▶ 厳しい状況にありながらも、将来を見据えてビール事業の拡大に向けたブランドを強化。
- ▶ コンテンポラリーカテゴリーとして、キリンビールと共同開発したHahnブランドの新商品「Hahn Ultra Crisp」を発売。



Iron Jack +19%

Furphy +53%

新たな成長に向けた取組み

グローバルクラフト事業

クラフトビール



3月30日発表
Magic Rock Brewing

クラフトスピリッツ



3月22日発表
Four Pillars

4月5日発表
Vanguard
(ディストリビューター)

ワイン



3月28日発表
TEXTBOOK

プレミアムクラフト飲料



3月26日発表
Teza Iced Teas (NZ)

協和発酵キリン

国内・海外事業とも、通期見通しに対し順調に進捗。

グローバル戦略品

遺伝性くる病治療薬

KRN23 / ブロスマブ
Crysvita

- ▶ 欧米での販売が順調に推移。
- ▶ 今後は、欧州における成人への適応拡大を予定。

血液がん治療薬

KW-0761 / モガムリズマブ
Poteligeo

- ▶ 米国での販売が好調に推移。
- ▶ 通期見通し売上100億円に対して順調に進捗。

パーキンソン病治療薬

KW-6002 / イストラデフィリン
ノウリアスト（日本製品名）

- ▶ 米国食品医薬品局(FDA)が新薬承認の再申請を受理。
※2019年4月4日発表

協和発酵バイオ

協和発酵キリンから、キリンホールディングスによる直接保有へ。

2019年2月5日
協和発酵バイオ社の株式95%取得方針を発表

2019年4月24日
株式取得完了



キリンHD
協和発酵バイオ
新規事業部門
協和発酵キリン
飛躍的な成長に集中

シナジーの創出を加速

資料編

(参考) 業績予想修正 (4月26日発表済み)

ライオン飲料事業の減損影響により通期予想を修正。配当予想には影響なし。

- ▶ 4月26日に「減損損失の計上、豪州子会社の一部事業譲渡及び通期連結業績予想の修正」を発表。
- ▶ ライオン飲料事業の資産価値再評価により、減損損失571億円を1Q計上のうえ、通期予想にも反映。
- ▶ 減損損失は平準化対象のため、平準化EPSおよび配当予想に影響なし。

(億円)	2019年修正予想	2019年年初予想	差異	%	2018年実績
売上収益	20,000	20,000	-	-	19,305
事業利益	1,900	1,900	-	-	1,993
税引前当期利益	1,329	1,900	-571	-30.1%	2,469
親会社の所有者に帰属する 当期利益	629	1,200	-571	-47.6%	1,642

定量目標

	2019年修正予想	2019年年初予想	差異	%	2018年実績
平準化EPS	157円	157円	-	-	167円

財務指標 (参考)

	2019年修正予想	2019年年初予想	差異	%	2018年実績
EPS	71.64円	136.67円	-65.03円	-47.6%	183.57円

4月26日リリース: <https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/library/event/>

2019年1Q 実績：セグメント別 売上収益

(億円)	19年1Q実績	18年1Q実績	増減	%
連結 売上収益	4,343	4,312	31	0.7%
国内ビール・スピリッツ	1,399	1,389	10	0.7%
麒麟ビール	1,363	1,354	9	0.6%
その他・内部及びセグメント間取引消去	36	35	1	3.1%
国内飲料	587	591	-5	-0.8%
麒麟ビバレッジ	591	595	-4	-0.6%
セグメント間取引消去	-4	-4	-1	-
オセアニア総合飲料	735	830	-94	-11.4%
ライオン	735	830	-94	-11.4%
酒類	398	463	-64	-13.9%
飲料	337	367	-30	-8.2%
セグメント間取引消去	-0	-0	-0	-
医薬・バイオケミカル	925	831	94	11.3%
医薬 (協和発酵麒麟)	756	662	94	14.2%
バイオケミカル(協和発酵バイオ)	185	187	-1	-0.8%
セグメント間取引消去	-16	-17	1	-
その他	698	671	27	4.0%
メルシャン	141	139	2	1.6%
ミャンマー・ブルフリー	91	77	14	17.9%
CCNNE	298	289	9	3.1%
その他・内部及びセグメント間取引消去	167	166	2	1.0%

2019年1Q 実績：セグメント別 事業利益

(億円)	19年1Q実績	18年1Q実績	増減	%
連結 事業利益	369	371	-2	-0.6%
国内ビール・スピリッツ	122	114	8	7.2%
麒麟ビール	118	109	9	8.0%
その他	4	4	-1	-12.8%
国内飲料	28	39	-12	-29.2%
麒麟ビバレッジ	28	39	-12	-29.2%
オセアニア総合飲料	85	109	-24	-22.3%
ライオン	85	109	-24	-22.3%
酒類	102	120	-18	-14.7%
飲料	-1	9	-10	-
本社	-17	-20	3	-
医薬・バイオケミカル	183	149	35	23.3%
医薬 (協和発酵麒麟)	175	130	45	34.5%
バイオケミカル (協和発酵バイオ)	6	12	-6	-47.4%
その他	2	7	-5	-70.8%
その他	48	38	10	26.7%
メルシャン	-1	0	-1	-
ミャンマー・ブルフリー	39	35	4	12.0%
CCNNE	0	-4	4	-
その他	9	7	3	37.1%
全社費用・セグメント間取引消去	-97	-78	-19	-

2019年1Q 実績：キリンビール

(千KL)	19年1Q実績	18年1Q実績	増減
ビール類計	349	340	2.7%
ビール	111	127	-13.2%
発泡酒	84	91	-7.9%
新ジャンル	155	122	27.3%
RTD	81	70	15.3%
ノンアルコール飲料	7	8	-5.6%

(億円)	19年1Q実績	18年1Q実績	増減	%
売上収益	1,363	1,354	9	0.6%
酒税抜売上収益	800	783	16	2.1%
事業利益	118	109	9	8.0%

2018年1Q 事業利益 (億円)		109	主な内容
対前年 増減 (億円)	酒類等限界利益 減	-8	ビール類計 -12億 (ビール減 -17千kl、発泡酒減 -7千kl、新ジャンル増 33千kl) ビール類以外計 8億 (RTD増 11千kl、ノンアル減 -0千kl) 品種構成差異等 -4億
	原材料費 減	3	
	販売費 減	3	販売促進費減 6億、広告費増 -3億 (計141億→138億)
	その他費用 減	11	全社費用直課分 減 6億 他
	計	9	
2019年1Q 事業利益		118	

市場

- ▶ ビール類市場は微減で推移し、キリン推計で-0.4%。
- ▶ 各社が販促強化したことで新ジャンルカテゴリーが活性化。一部カテゴリーシフトが見られる。
- ▶ RTDを含めた低アルコール飲料市場としては約2%拡大した。

当社の状況

販売数量

- ▶ ビールは昨年4月から価格改定を行ったリターンブル容器商品の仮需裏返しなどにより-13.2%
- ▶ 新ジャンルは昨年3月に発売した「本麒麟」が好調を維持し大幅増を達成した。

業績補足

- ▶ ビールの数量減少による限界利益減に加えて、運搬費や変動販促費が増加したことにより品種構成差異が悪化し、限界利益は対前年-8億円となった。

2019年1Q 実績：キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		19年1Q実績	18年1Q実績	増減
カテゴリー別	紅茶	1,341	1,247	7.5%
	日本茶	707	654	8.0%
	コーヒー飲料	565	665	-15.0%
	果実・野菜飲料	500	541	-7.6%
	炭酸飲料	383	344	11.2%
	健康・スポーツ飲料	181	202	-10.3%
	水	892	852	4.7%
	その他	299	298	0.1%
容器別	缶	735	827	-11.1%
	大型PET	1,639	1,551	5.7%
	小型PET	2,088	1,964	6.3%
	その他	406	462	-12.2%
計		4,868	4,804	1.3%

（億円）	19年1Q実績	18年1Q実績	増減	%
売上収益	591	595	-4	-0.6%
事業利益	28	39	-12	-29.2%

2018年1Q 事業利益（億円）		39	主な内容
対前年 増減 （億円）	清涼飲料限界利益 増	5	販売数量増 64万ケース 3億 商品・容器構成差異等 2億
	原材料費等 増	-5	原料費減 1億、材料費増 -3億、加工費増 -3億
	販売費 増	-11	販売促進費増 -5億、広告費増 -6億（計62億 → 74億）
	その他費用 増	-1	全社費用直課分減 2億、自販機償却費増 他
	計	-12	
2019年1Q 事業利益		28	

清涼飲料市場

➤ 1Qの清涼飲料市場は±0%と前年並みで推移。

当社の状況

販売数量

- 「午後の紅茶」ブランドは、「おいしい無糖」の大幅増、3月発売の「ザ・マイスターズ ミルクティー」の好調などにより増加。
- コーヒー「FIRE」は、大半を占めるSOT缶が減少。
- 「生茶」ブランドおよび水カテゴリーの大型PETが増加。

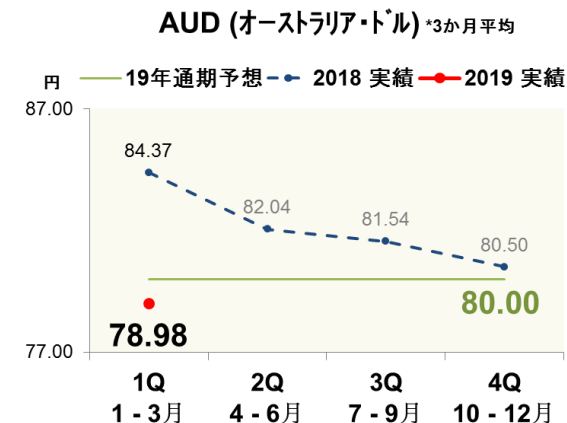
業績補足

- 商品・容器構成差異等：
 - ・容器ミックスは悪化
 - ・「トロピカーナ」が販売スキーム変更により限界利益単価プラス（販売費等の固定費にはマイナスに影響）
- 広告費：「午後の紅茶」ブランドの強化など。

2019年1Q 実績：ライオン

	円ベース(億円)			
	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減	%
売上収益	735	830	-94	-11.4%
酒類	398	463	-64	-13.9%
飲料	337	367	-30	-8.2%
事業利益	85	109	-24	-22.3%
酒類	102	120	-18	-14.7%
飲料	-1	9	-10	-
本社	-17	-20	3	-

	豪ドルベース(百万豪ドル)			
	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減	%
売上収益	931	983	-52	-5.3%
酒類	505	548	-44	-8.0%
飲料	427	435	-9	-2.0%
事業利益	107	129	-22	-17.0%
酒類	129	142	-13	-8.9%
飲料	-1	10	-12	-
本社	-21	-23	2	-



ライオン社は、IFRS会計上3か月毎の平均レートを積上げる。

	酒類	飲料
販売数量増減	-14.0%	-1.2%

事業利益増減 (百万豪ドル)	2018年1Q 実績	142	10
	販売数量 増減	-35	-0
	その他	22	-11
	2019年1Q 実績	129	-1

補足

ライオン酒類

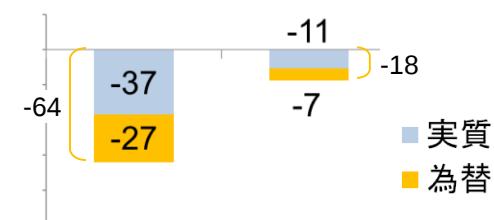
- ▶ 売上収益・事業利益は共に、クイーンズランド州でのCDS影響に加え、需要期であるイースターの時期ズレ、昨年4Q期間の受注増の反動により減少。

ライオン飲料

- ▶ 売上収益は、白牛乳、果汁飲料の販売数量減の影響により減少。
- ▶ 事業利益は、干ばつなどの異常気象が、豪州のほぼ全域で原料乳の乳価・安定供給に影響を及ぼしたこともあり、大幅に減少。

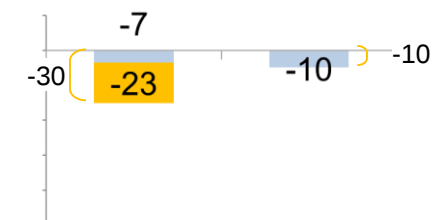
連結為替影響 ライオン酒類 (億円)

売上収益 事業利益



連結為替影響 ライオン飲料 (億円)

売上収益 事業利益



2019年1Q 実績：医薬・バイオケミカル

(億円)	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減	%
売上収益	925	831	94	11.3%
医薬 (協和発酵キリン)	756	662	94	14.2%
バイオケミカル(協和発酵バイオ)	185	187	-1	-0.8%
セグメント間取引消去	-16	-17	1	-
事業利益	183	149	35	23.3%
医薬 (協和発酵キリン)	175	130	45	34.5%
バイオケミカル(協和発酵バイオ)	6	12	-6	-47.4%
その他	2	7	-5	-70.8%

補足

売上収益

- ▶ 医薬事業では、国内において2018年4月の薬価引き下げの影響や、後発品の市場浸透の影響があったものの、新製品などの売上伸長により、売上収益は前年同期比で増加。
- ▶ 海外は、Crysvitaなど新製品の市場浸透が好調に推移し、売上収益が増加。
- ▶ 技術収入は、昨年計上したベンラリズムブ関連の一過性の収益が無くなった事により、減少となった。
- ▶ バイオケミカル事業は、主力のアミノ酸の売上は海外で増加したが、為替影響が前年同期より大きく若干減収。

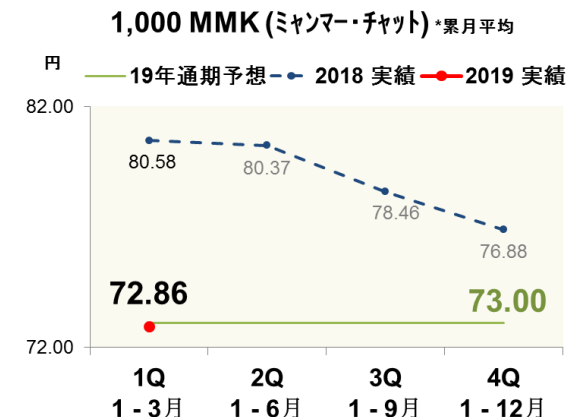
事業利益

- ▶ 医薬事業では、海外での販売・上市準備費用の増加により、販管費は増加。
- ▶ 2018年に開始したKHK4083やRTA402の治験の影響もあり、研究開発費は前年同期比で17億円の費用増。
- ▶ 一方、国内・海外での売上収益の増加などにより事業利益は+45億円で着地。
- ▶ バイオケミカル事業は、通信販売事業で販売促進費の集中投下を実施したため、対前年で事業利益が減少。

2019年1Q 実績：ミャンマー・ブルワリー

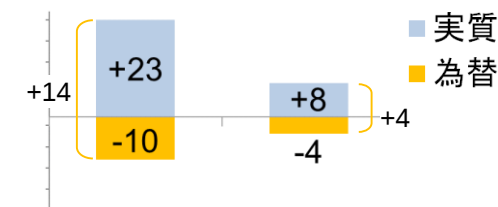
	円ベース(億円)			
	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減額	%
売上収益	91	77	14	17.9%
事業利益	39	35	4	12.0%

チャットベース(Billionチャット)			
19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減額	%
125	96	29	30.4%
54	43	10	23.9%



連結為替影響 ミャンマー・ブルワリー (億円)

売上収益 事業利益



補 足

(%)	対前年
ビール	+13.1%

販売数量

- ▶ 主力商品である「ミャンマービール」や、引き続き伸長が続くエコノミーカテゴリーの「アンダマン ゴールド」など各ブランドが数量増を達成。
- ▶ 最盛期である1Qにおいて各社が販促活動を強化する中、市場と同等か上回る数量増を達成。

業績補足

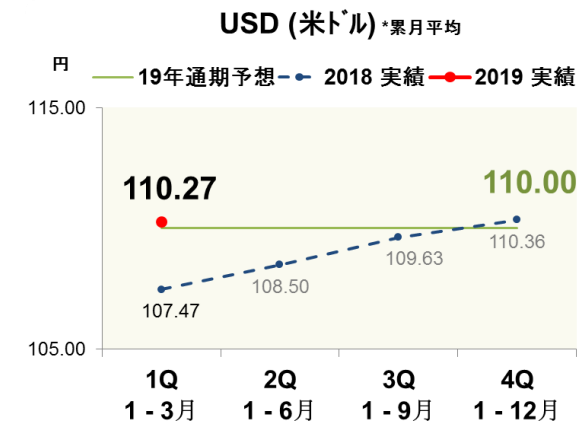
- ▶ 1月に実施した値上げの影響などにより売上収益は大幅増。
- ▶ 事業利益はミックス悪化やコスト増などにより売上収益の増率を下回るも、数量増により大幅増益を達成。

2019年1Q 実績：CCNNE (Coca-Cola Bottling Company of Northern New England)



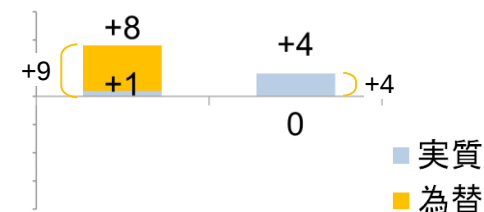
	円ベース(億円)			
	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減額	%
売上収益	298	289	9	3.1%
事業利益	0	-4	4	-

	USDベース (million \$)			
	19年1Q 実績	18年1Q 実績	増減額	%
売上収益	270	269	1	0.5%
事業利益	0	-4	4	-



連結為替影響 CCNNE (億円)

売上収益 事業利益



補 足

- ▶ イースターの需要期差異はあったものの（前年は1Q、今年は2Q）、販売は好調に推移し前年並みを維持（-0.3%）、値上げ効果もあり増収
- ▶ 単価増に加え、前年に実施した製造拠点再編成を始めとするサプライチェーン・業務効率化により、事業利益が増加

2019年1Q 実績：平準化EPS 明細

平準化EPS

(億円)		19年1Q実績	18年1Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	-408	501
非継続事業からの四半期利益	②	-	-
税金等調整後その他営業収益／費用	③	629	-237
平準化 四半期利益	④ = (① - ②) + ③	221	264
期中平均株式数 (千株)	⑤	877,997	912,603
平準化EPS (円)	④ ÷ ⑤	25	29

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together